



5万分の1地質図幅の新刊

東京西南部

TŌKYŌ-SEINAMBU

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告

著者 岡 重文・菊地隆男・桂島 茂

発行 工業技術院 地質調査所

取扱先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401

そのほか全国主要書店

販売価格 3,350円

本図幅地域は、東京の西南部から横浜北部に位置し丘陵台地及び沖積低地からなっている。本地域の上総層群は多摩川の南にある多摩丘陵や下末吉台地地域においておし沼砂礫層や下末吉層など段丘構成層の基盤をなす下部更新統である。砂岩・泥岩・砂質泥岩互層などからなるが岩相が特徴的な凝灰岩も数多く挟まれている。およそ27枚の凝灰岩層が識別され鍵層として利用されて層序関係や岩相変化層厚変化などが明らかとなっている。

上総層群は本地域のほぼ中央に位置する溝口から南西に延びる緩い向斜構造をなす。向斜軸の南翼はほぼ東西走向4~2°程度で北に傾き北翼は北東—南西走向で東に10~2°の傾きを示している。岩相は本地域北西部の多摩川沿岸地域で砂岩(稲城層)や礫混じり砂岩(出店層)からなるがこれらは南方に向かって急に泥岩(柿生層)や砂岩泥岩互層(王禅寺層)に移化する。また厚さも2分の1以下となり本地域南部の鶴見川下流域では同層準が4分の1以下に薄くなるのが認められる。稲城層など粗粒な地層は層相や厚さからみて三角州の前置層として堆積したものと推定される。柿生層より上位にある飯室層は浅海内湾性の貝化石を含んでいる。

東京山の手台地上総層群は多摩川沿いにわずかに露出し

段丘構成層の基盤をなすのが認められる程度で大部分は台地の地下にある。このため層序区分地質構造などまだ十分に明らかにされていない。

本地域の相模層群と新期段丘堆積物は多摩丘陵と下末吉武蔵野台地を構成し下位にある上総層群を不整合に覆い上位の関東ローム層により整合に覆われている。相模層群は海岸平野の堆積物で岩相は砂礫砂泥からなり平坦な堆積面を残している。この堆積物を覆う関東ローム層の厚さは10~30mである。新期段丘堆積物は河床に堆積した砂礫層からなり厚さは1~6mでこれを覆う関東ローム層の厚さは2~7mである。丘陵台地を構成している段丘堆積物の上限高度は等高度曲線により表現されている。また沖積層の下限も等高度曲線により明示されており同時に沖積層の厚さも知ることができる。報告書の付図には「上総層群等高度曲線図」があり基盤の高度を読み取るにより地表から基盤までの深さも知ることができる。巻末の380本のボーリング柱状図には海拔高度地層区分岩相及びN値が記入されているので土木建築関係の技術者にも広く利用されることを期待している。なお本図幅に隣接する5万分の1「横浜」「藤沢」図幅をも併せて読まれることをお勧めする。

地質ニュース

第362号

10月号

昭和59年10月1日

定価 ¥ 600

千実費

発行

編集

工業技術院地質調査所

発行人

林久雄

発行所

株式会社実業公報社

東京都千代田区九段南4の2の12
〒102

Tel. (03)265-0951(代表)

振替口座 東京1-32466

総発売元

株式会社実業公報社

出版事業部